



富山県西部森林組合高岡支所 業務課 技師 関 舜亮さん

今回ご紹介する方は、富山県西部森林組合高岡支所の関舜亮さんです。高岡市山川地内の森林整備施業地でお話を伺いました。

1 現在の職業に就くきっかけ

高岡市出身の関さんは幼少期から登山やキャンプを通して、山や自然に関心があり、大学では森林や林業について学ばれました。その後、大学での学びを生かしながら地元に貢献したいという思いから富山県西部森林組合に就職されました。「大学で人手不足から起こる放置林の増加や、木の老齢化。それらを起因とする災害の発生について学び、森林・林業の力になりたいと考えた」と語られ、関さんのまじめで責任感が強い人柄が感じられました。



関 舜亮さん

2 現在の業務

入組4年目の関さんは森林施業プランナー業務に携わり、大規模集約化団地における所有者のとりまとめや現場管理、森林整備の計画の立案から収支の清算までを担当されています。富山県西部森林組合は、適切な施工地の管理や業務の省力化のために全国に先駆けてICTを活用した森林整備を行っており、その中でも特にドローンの活用について力を入れています。関さんは大学でGIS等を使っていた経験からドローンを用いた森林整備業務に抜擢され、施業の管理や補助金申請のデジタル化に加え、組合内でのドローンの研修会の講師を務めるなど、ICT技術の活用と普及に尽力されています。「(入組

1年目に経験した線状降水帯や能登半島地震後の現地確認でのドローンの活躍、作業の省力化や安全面の改善につながるドローンの活用が印象的」と語られており、学生時代に感じた人手不足からくる課題の解決のためにドローンの活用を進めていく姿勢が伺えました。

また、新しい技術を導入するにあたり、「現場の進捗の把握はドローンでもできるが、実際に現場を歩いて作業班に会って話を聞き、空撮では見えない伐倒方向や道の排水の問題についても把握するようにしている」と語られ、管理する側の労力を少なくすることだけではなく、現場の声を聴きながら作業員の負担や状況に応じて柔軟に対応することを心がけておられる様子が伺えました。



ドローンの研修会で講師を務める関さん

3 今後取り組んでいきたいこと

「今後も新しい技術がたくさん出てくると思うため積極的に活用したい」とおっしゃられており、また「伐採や植栽、竹林整備など様々な施業を大規模に行い、森林と人間の新しいつながりを構築しながら次の世代に良いもの(森林)を残していきたい。」と目標を伺うことができました。新しい技術を積極的に取り入れながら地元富山のより良い森林づくりに取り組んでいく意気込みが感じられました。森林施業プランナー業務で多忙な中、森林・林業の課題解決のために日々邁進されている関さんが今後ますますご活躍されることを心より応援しております。

文責 高岡農林振興センター森林整備課林政・普及班